

### 3 実地訓練のデータに基づく豚の殺処分計画の検討

中丹家畜保健衛生所  
宮城信司 岩間仁志

【はじめに】豚が口蹄疫ウイルスに感染した場合、その排泄量は牛の千倍以上と報告され、そのため口蹄疫のまん延防止には、迅速な豚の殺処分が求められる。そこで豚の殺処分訓練を行い、そのデータを基に養豚場での発生を想定した殺処分計画を検討した。【殺処分方法の検討】豚4頭を用い、頸静脈または耳静脈からの薬剤注射法（薬殺）と、電気殺法を比較検討した。作業性は薬殺が優れており、薬剤の投与部位は、耳静脈が手技、安全性、殺処分面積の点で頸静脈よりも有用であった。【殺処分計画】訓練結果を基に、管内3,000頭規模の一貫養豚場を想定したシミュレーションを行った。豚舎内には重機が乗り入れられないため、殺処分場所は豚舎外に設定した。種豚・育成豚280頭は、駐車場（60 m<sup>2</sup>）に誘導して薬殺すると、作業員65人、作業時間10.7時間を要した。また、肥育豚2,000頭及び離乳豚等700頭は、作業時間を最短にするために1頭ごとに処分せずに、宮崎県で行われた水密車両荷台でのガス殺とした。その結果、作業員20人、作業時間22.7時間（肥育豚）、作業員10人、作業時間23.4時間（離乳豚等）とそれぞれ試算した。【まとめ】実際の殺処分にあたっては、豚舎構造や作業可能な場所の確保など条件が異なるため、養豚場ごとに詳細な事前調査を行った上で、計画策定しておく必要がある。